



「レキシ」殿 サングラス大使に任命じゃ “めがねのまちさばえ”をPR

サングラスがトレードマークの人気アーティスト「レキシ」としても活躍中の鯖江市出身の池田貴史さんが、めがねのまちさばえ「サングラス大使」〈第1号〉に就任しました。

7月18日、福井市文化会館での「レキシ」福井公演の際に、牧野市長が池田さんに巻物風の任命状と名前入りオリジナルサングラスを贈呈しました。

今春、池田さんから自身のコンサートグッズ用サングラスの製作に関する相談が市に寄せられ、市内での量産が実現。完成したサングラスはファンの中で話題となり、各公演会場で完売しているそうです。

牧野市長は「池田さんのおかげで鯖江が有名になった。鯖江の星」とエールを送ると、池田さんは「鯖江に貢献できてうれしい。もつと鯖江の素晴らしさを広めたい。サングラスを掛けて頑張る」と意気込みを語りました。

池田さんは、ソロプロジェクト「レキシ」としての音楽活動のほか、人気アーティストへの楽曲提供や映画・ドラマ・CM等にも出演されるなど幅広く活躍中であり、任命を機に池田さんには、出身地でもある本市のブランド大使として、今後も市のPR等にご協力いただきます。

「いつかは鯖江の古墳の前でライブをしたい」と話す池田さん。今後の活躍とともに、凱旋ライブにも夢が膨らみます。



「サングラス大使」に就任した「レキシ」こと池田貴史さん(右)と牧野市長

【サングラス大使とは】

眼鏡フレームの国内製造シェア約9割を占める国内随一のめがね産地の中核である鯖江市。そんな、めがねのまち「さばえ」のことを多くの人に知ってもらうために、めがねのまちさばえ「サングラス大使」を新たに創設。鯖江のことをこよなく愛し、応援してくれる人で、かつ、サングラスがトレードマークになっている人を市が、その功績を称えて任命する制度です。



ふるさと散歩道

鯖江の近代史と歩兵第三六連隊(十)

北陸線の敷設

日本の近代産業発展のためには、物資輸送手段としての鉄道網整備が急務でした。当初、官営鉄道として建設が進みましたが、明治一〇年(一八七七)に勃発した西南戦争により政府財政が悪化すると、以降は民間資本による鉄道建設(私鉄)が盛んとなります。鉄道のなかった北陸地方でも、明治一四年以降に東北鉄道会社や北陸鉄道会社が設立され、敦賀と北陸地方を結ぶ鉄道建設が計画されましたが、いずれも実現はしませんでした。

一方、朝鮮半島をめぐって国際情勢が緊迫してくると、日本政府は海外派兵を可能とする軍備拡張を図り、鉄道輸送網は軍隊動員のための役割を求められていきました。こうして、鉄道建設計画は再び政府主導政策となり、軍部の発言権も高まっていく中、明治二五年(一八九二)に「鉄道敷設法」が施行されると、全国で三十三あった予定路線のうち、第一期予定線九路線の中に「北陸線」が入られ、ただちに敷設されることとなりました。

北陸線は明治二六年に着工し、明治二九年に敦賀―福井間が開通しました。当時の停車場(駅)は、敦賀・今庄・鯖波・武生・鯖江・大土呂・福井でした。(文化課 前田 清彦)

一方、朝鮮半島をめぐって国際情勢が緊迫してくると、日本政府は海外派兵を可能とする軍備拡張を図り、鉄道輸送網は軍隊動員のための役割を求められていきました。こうして、鉄道建設計画は再び政府主導政策となり、軍部の発言権も高まっていく中、明治二五年(一八九二)に「鉄道敷設法」が



鯖江停車場
〔「認証状伝達式記念誌」
1986年 鯖江玉山ライオンズクラブ〕